

現場俗語について

東洋工業KK* 田 中 重 芳

◆ 前おき

私たちの職場には正規の名称や言い表わし方でない「俗語」がたくさん使われている。これらのことばは古くから親しまれたものが多く、現に生きたことばとして通用しているのだから「俗語」であるという理由のもとに否定するわけにはゆかない。

しかし正規の用語があるにもかかわらず、同じ意味のことばを幾つも使い、中には耳なれないことばがあったりすると意志の疎通上障害が大きい。したがって、なるだけ正規の用語一本に絞って使うようにしたい。

特に職場の指導者は正しいことばで部下後輩に接触し、まちがいをなく仕事を進めるとともに正しいことばを部下後輩に教えなくてはならない。ここに正しい用語とは学術奨励審議会学術用語分科審議会のきめたものをいう。きまるまでの経路をたどってみると：—

終戦後学術用語整理統一の大事業が始まり、機械用語は昭和30年3月に確定した。現在われわれが使っているのはこれである。顧みると昭和7年の機械学会、昭和10年内閣資源局、昭和14年日本工学会、昭和17年全国科学技術団体連合会と窓口いろいろ変遷があって、昭和25年は大成し、最後に昭和30年に現行のものになった。このように井口在屋先生時代（やまとことばが強すぎた時代）以来改正が頻繁すぎるので、「早く覚えてもすぐ改正されるから覚えるのは損だ」とずるく構えるようにさえなったこともある。近ごろでも JIS の用語が現行の用語とちがうので、まごつくことが多い。

講義もテキストも昭和30年の制定に従っているから、学校出は旋盤、平削り盤、ホブ盤、……の名称を身につけて卒業し、工場へ乗込んで来る。ところが迎え入れる側では全くちがったドライバン、ヒカル盤、ホッピング、……の名称が常用されているので面くらう。

工具工場に勤めた人は誰でも経験があると思うが、「シナイズルを貸して下さい、シカラップも」と来る。説明をきいてやっとのみ込んでダイス、きさげを貸す。「太郎を貸して下さい」と来る。一々説明をきくのはきまりが悪い。「自分で出して持ってゆきなさい」としらを切っておいて、タップを持っていくのを横目で見て、あれが太郎かとさとり。こんなほほえましい苦心は学校出た

* 広島市外府中町

ての誰でもが経験している。

国の制定した用語を正当な名称ときめて、学校であろうと理場であろうと、早くこれに統一すべきであろうのに、昔から現場で厳として生きている名称（これに制定用語以外の名称であり、俗語というべきであろう）は一朝一夕には改められない。統一されるまでの過渡期は短いことが願わしいが、相当長期にわたるであろうことは歴史上からも明らかである。

俗語は使ってはいけないが、人が使うのは理解できなくて仕事ができないところから、俗語から学術用語を引き出される単語帖（大げさにいえばポケットブックか辞典）が必要になった。ついでに語源も探っておけば何かの参考になろうと考えた。会議の席で不用意に出ることば、現場へ出たとき人が平気で話すことばの中に俗語があればメモして、3・5年の間に集めたのがおよそ1000語、その後の追加が350語である。機械工作工場て用いられるものに限定したが、機械工場といっても化学関係、電気関係と間口が広いので、それを拾っては際限がないので、特に密接なものは別とし、およそ機械関係、ことに工作関係に絞ったのである。

というようなわけで、私がここに述べるのは俗語の意味を知って何不自由なく活用するためのものではない。できるだけ正規の用語を使うためのものであり、参考までに俗語の意味やそのいわれを知っておこうというのである。

◆ 古くからある名称

こしき、なかご、はばき、如意、ずく、やげん、おしゅかななどの古いことばが今も生きており、珍しいことばであるうえに、その物を見たことのない人もあろう。その中には学術用語となっているものもある。

こしきは曾へんに瓦を書く。昔は瓦製で円筒形か方形であった。米などを蒸しかしぐ器。酒造業者が使い大小種々ある。底に水蒸気を通す細穴があった。今は木製で底に竹のすのこを敷く。家庭用は小さくて蒸籠（せいろう）という。簡単なキューボラは筒形を数段積み上げた姿がこしきに似る。

なかごは刀身のうち柄（つか）に納まる部分で、ここに刀匠の銘を刻む。中心と書いてなかごと読ませ、中心

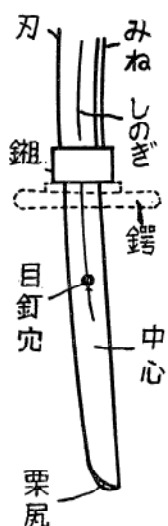


図1

中子とはばき

を一つに集めて忠とも書く。木型や鑄型の中子（学術用語）はこれにちなんだことば（図1）。

はばき（金へんに祖を書く。幅木、巾木は当て字）は刀のつば際に装備してつばもとを固める金具で、鑄型、木型のはばき（学術用語、core print）は形が似ているから与えた名（図1）。

如意はカム(cam)の別名。元来如意というは仏具であって柄の先にハートカムに似たもの（心の字のてん字をあらわすという）を取付けてある。（図2）

ずくはずくてつ（銑鉄、pig iron）の略。炭素含有量が多く、融点が低くて、たたらで製鉄するときから（金へんに母と書く。鋼）に先んじてできる鉄の意、



図2 如意

やげん台（V block）はやげんに似れ台の意。やげん（薬研）はポルトガル語との説がある。鉄製の舟の形をなし、V字形の中くぼみのみぞがあり、これに漢方の薬種を入れ、中心軸がハンドルになった円板状の車（周が刃になる）をもって薬種を切り砕く。学術用語は未制定。関西では三角台という。

おしゃか（おしゃか様）は関東のことばであって、江戸中期すぎまでは文献に出ていないというから割合新しいことばと思われる。江戸下町の職人が用いた。この語源として次の数説がある。

1. 誤作したらスクラップとし、代品を作ってごまかす。数は揃っているので気がつかない。このからくりはおしゃか様でも気がつくまいから始まったとの説。これはこじつけらしい。
2. 「お逆になる」がなまったとの説。これもこじつけか。
3. 暉峻康隆著「すらんぐ」によると、鑄物工場で地藏尊の像を鑄ようとして誤ってしゃか像を鑄てしまったから、だめになることをおしゃかになったという。
4. 楳垣実著「隠語辞典」によると、はんだ付けするのには、火が強すぎると、はんだが溶けてだめになる。

それを「火が強かった」というが、江戸下町の職人ことばで火をシと発音するので「シガツヨカッタ」といい、「四月八日だ」となり、四月八日はしゃかの誕生会の日だから、しゃれておしゃかになるという。

5. 鑄物協会の鑄物用語集によると、仏像鑄物師のことばで、あみだ仏（背部に光背がある）を鑄るとき、湯が低温だったり、鑄型がしめっていたりで湯まわり不良となり、光背ができないと、しゃか仏（光背がない）に似たものになる。

1～5が本格的な語源と思われるが、僧籍にある人について調べるとしゃか仏といえども光背がないわけではないという。

◆ 当 て 字

田金はたがね（学術用語 chisel, 斬の下にくっつけて金を書く）が正当。

真中は黄銅（学術用語）正当。もとは真鍮といったので、その当て字。

太郎はねじタップが正当。タップ(top)はフランス語で tarond（タロー）であり、太郎はその当て字。

半弗はハンドルが正当。弗は米国貨幣のドル。

矢床はやっこ（学術用語）が正当。やっこはやとこの促音化されたものでやとこに矢床をあてた。Tongs, pliers.

◆ 字の配置誤り

かって国会議員がエチケットをエケチットといい誤り、一躍有名になって、これをまねする人すら出た。まないたをなまいたという地方もあり、消しゴムをゴム消しという子供もあり、エスキモー人をエキスモーと誤る人もある。用語にもいくつかある。たとえば：—

Analogue computer をアナログと省略し、アナログと配置誤りをしたところがある。

メタリコン（学術用語、metallikon）を誤ってメタリコという人がある。

◆ 外来語が語源の俗語

語源は英語が最も多く、ドイツ語、オランダ語、フランス語がこれに次ぐ。その他のたとえばスペイン語、中国語などはピン（ピンから切りまでの）、ペケ（おしゃかの関西語）などのように極めて少ない。

1. 英語からの俗語

ゲージブロック、ブロックゲージ（学術用語、block gage）が正当である。さすがに英国は正しく block gauge といい、ブロック形のゲージの意。ゲージ形のブロックではないと主張する。賛成である。

スッパナ スパナ（学術用語、spanner）のなまり。

生産と技術

ニウム, ニューム Aluminium—アルミニウム (学術用語)—ニウム, アルミともいう。

ニス Vaanish—ワニス (学術用語)—ニス,

ハイス High speed steel (学術用語は高速度鋼) の略, セミハイス, シューパーハイスなどと用いる。

バレース Bar lathe, 正しくは bar work lathe (棒材加工用旋盤)。

ポリス Polishing—ポリシング—ポリス, 仕上みがき,

マンドリン Mandril, mandrel (学術用語は心棒)—マンドリル, マンドレル—マンドル—マンドリン, フランス語は mandrin—マンドラン, これを英語のつもりで発音したか。

モータードリル 電動機直結にして持運びのできるドリル, 電気ドリル (学術用語)—electric drill

レッゴ, デッコ Let go のなまり, つり上げた物を降したり, 積んだ物, かついだ物を置いたりするとき, 「さあ, やろう」というほどの意味,

ログ Data logger—データロガー—ログ, データを作成し, 処理する装置, 航海中に船の速度を丸木 (log) を流して測る装置の log から転じたという。

2. ドイツ語からの俗語

ケレン Kern (*m*), 中子, 中子型から転じて中子受け (学術用語, chaplet) の意, 別名型持たせ,

ノキズ Nonius (*m*)—ノニス—ノギス (学術用語), Nonius は人名であることは広く知られる,

バイトル Beitel (*m*)—バイトル—バイト (学術用語), ゆえにバイトルはバイトよりも原語に近い,

ヘールバイト ヘールは Feder (ばね) であって, ヘールバイトはバイトの先を曲げてばねの形とし, 削りにくい部分はよけるようにしたばねバイト (spring tool),

3. オランダ語からの俗語

ドライバン 新本広辞苑にドライばんは Drehbank からとも draaibank からともいうとある, 私は後者をとる, 学術用語は旋盤, 旋は draaien (旋回する), 盤は bank の当て字, 学術用語では切り粉の出る工作機械はすべて盤をつける, 例:—形削り盤, ボール盤, 研削盤,

バンコ Draaibank の bank, 旋盤のことだが, 工作機械を総称する場合にも用いる, 例:—「あの工場はよいバンコが多い」,

テーキン Teken—テークン—テーキン, 記号をつける, 刻む, しるしをつけるの意, 数字テーキン (figure stamp, figure punch, 数字刻印 (学術用語)), 英字テーキン, ローマ字テーキン (letter stamp (punch)) などという, 刻印, ポンチ,

ブリキ Blik—ブリック—ブリキ (学術用語), 昔英国かられんがをブリキ板で包装して輸入した, 「これは何か」と質問したらイギリス人は内容物を問われたと思

い blick と答えた, 質問した包装のブリキと解したとの説はこじつけであろう,

4. フランス語からの俗語

イケール E'quere d'angle—エケレダングル—イケール—イケール, 学術用語未制定, 直角定盤またはベンガラスという, 英語の angle plate,

スポール Shpport—シュポール—スポール, 台, 支持台, 支持棒, われわれがスポールというのは support à chariot (工具送り台) のこと, 下スポールは横送り台, 上スポールは複式双物台, 角スポールは双物台, スポールハンドルはバイト取付け用ハンドル, 上スポールハンドルは複式双物台のハンドル,

太郎 Taraud—タロー—太郎, ゆえに太郎は当て字, 学術用語はねじタップ (tap),

トースカン Trouseguin—ツルスカン—トースカン, Trussequin—ツリュスカン—トースカン (学術用語), けびきともいう,

◆ 片言 (かたこと)

明治維新の前後において, まだ外国語, 特にオランダ語が普及していないとき, 工員の耳から入ったことばはほとんどが片言になっている, ところが維新から 100 年を経過した今日といえども片言は跡をたたないどころか, ますます増加の傾向にある, 数例をあげると:—

ケッチン 内燃機関においてけかえしのことをケッチンという, Kicking—キッピン—ケッチン, 上司に意見を具申したら採用するところとならず, 差戻しになった場合に「ケッチンを食った」などという,

シカラ きさげ (学術用語) のこと, Scraper—シカラップ—シカラ,

シング ドリルの先のみ刃 (chisel point) の幅を狭くといで, スラストを減少せしめる, これを point thinning といいまだ学術用語はない, ところが現場ではシングという, Thinning—シーニング—シング,

サーちゃん すきまゲージ (学術用語) のこと, Thickness gouge, feeler gauge, searcher—サーチャー—サーちゃん, セーチャーともいう,

タンガロン Tungaloy (タンガロイ) は焼結合金としては最も早くわが国に紹介せられたからタンガロイは焼結超硬合金のことと早合点している向もあるくらい, タンガロンはその片言,

レータ Data—データ—レータ,

◆ 消 略 語

ビルディング (building) をビル, デパートメント・ストア (department store) をデパートというようにならかなり文字で 2~4 字に思い切って短く縮めたことばが多い,

これは日本人が得意とするところの省略法である。これを少し列記してみよう。

アナコン Analogue-computer 相似型電子計算機。

クロモリ chrome-molybden steel, クロモリブデン鋼。

コンロッド Connecting rod, 学術用語は連接棒。ただし、ほとんど用いられていないのは遺憾。

ジュラ Duralumin ジュラルミン (学術用語)。

デフ Differential gear, 差動歯車 (学術用語)。

テレ Teletype, 電信印字機 (未制定)。

パーチ Vertical milling machine, 立てフライス盤。

ハイテン High tension cast iron, 高張力鋳鉄, high tension steel, 高張力鋼の両方に使うが後者の場合が多い。

ハイマン High manganese steel, 高マンガン鋼 (未制定)。

ボーキ Baurite, ボーキサイト。

リモコン Remote control, 遠隔制御, 遠隔操縦 (学術用語)。

外国語を省略し、その前または後には本語を置いて複合名詞にした俗説も多い。その数例をあげる：—

押しコップ Tail stock, 心押し台, コップはドイツ語。

はし (端) コップ Head stock, 主軸台。

現テラ 現場で作るテラゾー。

ビスねし 小ねじ (学術用語), フランス語 vis はらせん, ねじくぎ, おねじ等。

ピスマわし ねじ回し, screw driver

べたバイス 底の平たい機械万力。

横ボール Horizontal boring machine, 中ぐり盤または horizontal drilling machine, 横ボール盤。

レジといし レジノイド (resinoid) といしの略。合成樹脂剤とするといしの総称。ベークライトもそのうち一種である。

◆ 固有名詞が普通名詞と化す

スチブソンは始めて作った自分の蒸気機関車の愛称として Locomotive とした名をつけたら、いつの間にか普通名詞になってしまった。この例はほかにもある。

アリゲーター (Alligator) は米国のベルトとじの商品名である。鋼の薄板を抜いて、V字の帯とし、両側に歯が並んでいる。歯はベルトの表と裏とから食いこむ。並んだ歯からわに (alligator) を連想しての商品名である。ベルトとじ (学術用法) にはこのほかに何種類もあるのにアリゲーターとかわにと呼ぶ。

クイル (Quil) も固有名詞である。米国 Heald 社が内面研削盤のといし軸の回転体に与えた名称であるのにそれに似た部品は広くクイルと呼ばれる。クラクション

(警笛) はクラクソン (学術用語, klaxon horn) の発音ひずみ。Klaxon はその製造会社の名であり、また商品名であったのが普通名詞となった。

◆ 旧制定語

もと用語として制定せられ、後に改正されたのに、改正前そのまま、いまだに用いられるものがしばしばある。その数例をあげよう。

追分点, 思案点 ピストンやクランクの deat point のことで、現在は直訳して死点という。

刻み, 歯車のピッチ (学術用語, pitch) のことで、刻み円はピッチ円 (学術用語) である。まだわずかに残っている。

基範, 挾範に対する古い名である。学術用語は標準ゲージ (standard gauge)。

挾範 字の意味からするとはさみゲージ (学術用語, snap gauge) であるから、広く限界ゲージ (学術用語, limit gauge) を意味させるのは無理がある。しかしかつては挾範協会というのが活発に活動したこともある。

基円 昔は基礎円 (base circle) と定められ、途中で基円 (もとえん) と改められ、現行はまた基礎円に逆戻りした。

以上の数例を見てわかるように、ひとたび定められた術語は使いなれるように努力するから、あとから改正、また改正と変遷を重ねるのは使う方の立場の者にとっては迷惑なことである。

◆ 旧軍用語

陸軍はフランスとドイツ、海軍は英国の影響が多いが、軍人は特別な名称を使った。セビロ服を商人服、一軒家を独立家屋という具合で、機械も工具もいわゆる民間工場とはちがっていた。陸海軍の人が終戦後どっと入社して来て、もとの名称を使い、それがその工場に生えぬきの技術員にも伝わった。数例をあげよう：—

かいらいき, かーらいき 回螺器のなまりでスパナ (学術用語) のこと。現在ではかーらいきはみぞ付きナット (slotted nut) をまわす引掛けスパナ (学術用語, hook spanner wrench かぎスパナ) である。

突貫 突撃のこと。命がけで敵に突込んでゆく。突貫工事というのは全力をあげて急ぐ工事。

どんびしゃり 海軍用語で砲撃や爆撃のとき、一発ドンと発射し、ピシャリと命中する意。試作品がただ一回で成功する場合などに用いる語。

発条 ばね (学術用語, spring)

ボーン 英語の boatswain boun, ボーンは Webster に bosun と書いてある。海軍用語で水夫長、掌帆長の意、海軍工廠で組長、職長の意に用いられたらし

い。心棒の隠語が棒心だとの説はこじつけ。英語のboss, bossy は意味はずばりだが発音は遠い。

ぼら 母螺は旧海軍用語であって、ナット。

◆ 結 言

旋盤、レース、ダラインパン、バンコと四つの名称があっては混乱する。制定用語たる旋盤だけの一つを正しい名称とし、それ以外は俗語とわり切らねばならぬ。俗語には古くからあるものもあって、捨てるには惜しいことばもあるが、制定用語にとり入れられてないから捨てるほかはない。当て字、片言、配置誤りがたくさんあるが、これは一議に及ばず早く捨てたい。とにかく制定用語に早く習熟し、それ一本でゆきたい。

ここに見逃がしてはならないのは独得のニューアンスを持った軍隊用語になれた人がまだその用語を使っていること、いまの用語の制定以前のもとの制定用語になれた人が、まだそれを捨てないで使っていることの二つの事実から、一度覚えた用語は容易に捨てられないことがわかるのである。ひとたび与えられた名称は永く使うので軽はずみに用語をきめて貰っては、われわれは永く迷惑するのである。赤ん坊につけた名は少年、青年、おとな、老人となるに応じて、その名は本人が好きな時もあり、きれいになることもあるが、今更変えられない。死後までも変らない。英語では昔から lathe であって、それ以外の名称はなく、新造語も現われない。従って早く覚えて損をしたということはない。

JIS には制定用語とちがう名称が続々と出て来る。制定用語にないから、JIS で追加するのはさしつかえないが、制定用語があるのに別に名称をつけられては困る。執筆要項に「学術用語か JIS 用語を使い」と指示してあるのは賛成するが、「学術用語と JIS 用語と相違する場合は JIS 用語に従うように」と指示してあるとすると大変な繁雑なことになるのみならず、制定後十年も経過したのだから、またそろそろ改正するつもりではないかと

疑いたくなり、現行の用語を本気で覚える気魂がにぶる。私の名はあくまで田中重芳の一本でありたい。JIS で山外軽崩などの別名をつけて貰いたくない、山外と呼んで貰いたくもない。ましていわんや、あだ名(俗語)などは真平である。

また互に気をつけたいのは、既に制定用語があるのに更に新語をむやみに造らないことである。長い名称をずばり省略して得意とするところであり、受取る方でも無条件である。すぐに流行する。もしこれからの新語を造る必要がある場合は、日本人のこういう特殊な好みも勘案して決めると、早く普及するであろう。

関東と関西で名がちがう場合が少くない(関東でおしゃか、関西でベケ)。そのいずれか一つを採用するという場合には例外なく関東がとり上げられる。それは関東側の名がよいという理由にちがいないが、委員は関東側が絶対に多数で、その使いなれた名称が採択されるからではないかと疑う。関東、関西の両方の名を比較検討してほしい。関西にもよい名がありそうに思う。

ついでに言わして貰うなら本語選定委員は自分の好みを露骨に出して貰いたくない。制定されたうちは、私たちは虚心坦懐に、忠実に使うのだが、特殊な色が濃いのは一般の人に親しまれにくい。よくいわれるように、家を新築するときには住む人の好みに応じて、どんな設計であろうともお勝手のはずだが、経験ある人は「何年か後に売家にするつもりで設計せよ」という。つまり世間に好まれるような設計ではすぐあきが来るとの教えである。用語は万人に向くように心がけ、選定委員の好みを露骨に出さないのがよい。落語のジュゲム・ジュゲムは用語選定委員諸公にきかせる所作か。

以上は用語改訂のための気づきではなくて、まだ制定用語のできないものを、今後きめる場合に選定委員諸公に心得ておいて貰いたい気づきである。

工場俗語を捨い集めてみての感想のあらまし、以上φとおり。